



しじゅうから

福島市小鳥の森通信 2017年1月号 No.374

小鳥の森で観察してみよう 63

カシラダカ

分類：ホオジロ科

大きさ：15cm

生態：明るい林や草地、農耕地などに生育する。

日本には冬鳥として渡ってくる。

子育てをしていない時期は、数羽～100羽ほどの群れを作る。

小鳥の森での観察：

あわ畑で跳ね歩きながら種子をついばむ様子が見られる。



今回の絵は、ほし せいり さんが描いてくれました。



1月の自然予報



昨年は、例外的に雪の少ない年でしたが、例年は、1月になると雪が積もり始めます。

地面が雪で覆われてしまうと、ツグミやシロハラ、トラツグミなど地面でエサを探す野鳥はエサを探せないで、赤い実に集まります。

小鳥の森にはウメモドキやピラカンサなどがこの時期でも赤い実をつけています。昨年は珍客のマミチャジナイも確認されました。今年は、どんな野鳥がこれらの実を集まって来るでしょう。



ピラカンサにやって来た
トラツグミ

1月15日	トラツグミ
1月27日	マミチャジナイ

昨年の1月に確認した主な野鳥

ネイチャーセンター 工事のお知らせ

現在、小鳥の森ネイチャーセンターは、外壁の修繕工事を行っています。

ネイチャーセンター内の見学はできますが、防護シートのため、窓から外を眺めることができなくなっています。

そのため、給餌台にやって来る野鳥などもネイチャーセンター内からはご覧いただくことができませんのでご注意ください。

またライブ映像の配信もお休みになります。

ご迷惑をおかけしますが、よろしくお願いいたします。

(工事期間は3月末までです)





12月の自然



12月に入り、小鳥の森のコナラやサクラなどの木々は、葉を落とし、氷が張ったり雪が降ったりと、いよいよ冬本番の森になりました。

12月21日は一年で一番昼の時間が短い「冬至」でした。七十二候という区分の中では「乃東生（夏枯草生ず・なつかれくさしょうず）」に当たります。「なつかれくさ」とはシソ科のウツボグサを指します。夏の盛りの頃に枯れ、厳しい冬の頃に芽を出すと、昔の人は観察から知り名付けたようです。長い夜の時期をじっと辛抱し新しい命を芽生えさせる、希望を感じる植物の代表であったことから、季節の区分として使われたのでしょう。

他にも、寒さに耐えるため地表にバラの花のように葉（ロゼット葉）を広げる越年草や、うろこ状の葉に何枚も包まれた冬芽をつけた樹木が、春の訪れを待つ12月の森でした。



ウツボグサの芽生え



ガマズミの冬芽



ショウショウバカマのロゼット

小鳥の森スタッフだより

鳥インフルエンザについて

鳥インフルエンザが福島市内でも発生しました。新聞やテレビなどの報道で知っている方も多いのではないのでしょうか。

鳥インフルエンザは、鳥と過度な接触がなければ、人間にはうつらないと言われています。ただし、野鳥同士でうつったり、ニワトリやアヒルといった家禽にもうつったりするので注意が必要です。

鳥インフルエンザは、カモ類など水鳥が主な宿主になっているようです。人間が誤ってウィルスを運ばないように、今年の冬は水鳥がフンをするような水際には近づかないようにしましょう。



(レンジャー 五十嵐 悟)

講演会を開催しました

12月13日に、国立科学博物館の西海功さんをお招きして、講演会を開催しました。西海さんは、福島県内でフクロウの調査を行っています。フクロウの繁殖と放射能の関係などとても興味深い内容でした。

また、レンジャーからは、小鳥の森の鳥類相10年間の変化について話がありました。長年記録をつけることで見えてくるものがたくさんありました。

毎年小鳥の森では野鳥に関する講演会を開催しています。興味のある方は、ぜひご参加ください。



※福島市小鳥の森では色々なイベントを開催しています。

詳しくはネイチャーセンターまでお気軽にお問い合わせ下さい。

※小鳥の森ホームページで小鳥の森スタッフが独自に測定した環境放射線量を公開しています。

福島市小鳥の森（ネイチャーセンター） 開館時間：午前8時30分～午後5時
《入場無料》 休館日：毎週月曜日（祝祭日の時はその翌日）

〒960-8202 福島市山口字宮脇98 Tel：024-531-8411 fax：024-534-8800

小鳥の森のホームページ・・・<http://www.f.kotorinomori.org/>

小鳥の森通信「しじゅうから」2017年1月号№374/企画・発行：福島市小鳥の森/日本野鳥の会ふくしま